流風

沸愛義塾

1.682
5

御前義経記　難波津風景　勧進帳

五之巻目録

一　難波の門出

面影うつる白波の　身は張子なれども
男女傾城　元祖と還俗

二　大磯石橋

面影うつる白あげまきの　力自慢さうあるうらぶね
業平女房　後家

けなげの中の後書

面影うかるまこのぜへ

三 吞氣そうな

なつかしうぞふ

うぶいいちうと　花笠

遊男の秋

面影うかるうそうぞん

四 長州九ぞう

そうり船の風景

中

悪性の口あるだ

風呂の焼付

その中のいせ

伊勢藩

一 難波の門出

同屋家蔵

吉原のうち花魁ようと父の面影ようと苦悩に。

もうこ海孫ようこのんうさせんうもなれ男の

よを書くぐくをぐ所のとうと悪癖なりようわをとう

ふるるを去れ物来ぞよ新ようめつとあるさ所毎

うあんどうあるようにあに海しあせるあもいをくぐうれるあと

而とうあるうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐ

男に海うう花愛ううれ信ぐりれとも父のとうあまれ義へ

あるもあうざあるあ苦ようあまようとおりるもうあ

うぐひ顔倒をを色ようなうきれとりくくれるり動ふ

語難波とあんよ

そうて勤セとめさせ知うとて弥陽おのくの祖父う。
何ゞ様に新しきの召はくはせ給ふ。
かゝる色〳〵さいそくゞ四日と云日と云日のうち
色〳〵ちのうの代うに屋つ男ゞて〳〵上方へのぼりねも
と清水よりつまつ〳〵ゞ子よりお給ふ月八金銀おくてゝ
まゝ物なり。乗清張の用清。代よ作付き色ゞ様
はくゝ谷は津右。さ仁てうゝ主ゞ中入色〳〵。何の祝すても
ふまうせおうさ様色〳〵と屋つよりうくゝ中実せと
ちとの書に妹夫のめ嫁も弱おゝ。ゞ様〳〵てゞ主と
ゞひとよりめ新渡のゞり。ゞ様九中ようゞ知さまゞか
うゞちうゞを作さけらうゝ人ちとこゞとゞ様気色さまゞ
さより。紙張乃用ゞ。ゞ様ゞ様ゞ様ゞ様ゞ門おの

祝義弛よりちうゞ様おめらゝ。紙書八中居らゝくさ
つゞゝわうゝめ者ゞ様ゞ人辛と勤セ上下ゞ言荷信のめり
盗月八分にうま人問義ゞうらうけよゞ髪刺刀新りゝく
様およ喪様ゞ様ゞ様ゞ様ゞ

御川茶屋巳之五

ちゆうでう。寵愛の動もどの情ぐうとおもひ法師ごと
おいかのいねとんへうう。あとにこの野六十歳智八十とふ
に未世よりたるれ身を持男よりあるべそちぐ者よ情よ
てきべ。山場とあいかとそのくいとこの我男にしろ
どのこのはこでもなりませあ。けいうこやとうこみな
げくいも動也実在たれのの中とあ義こきねが佛おきども。
実はたりなくてをあぬ。いづまこかたあ男ふあ者れ
一行はまこ義れとうう。そこ義れとおこさば兵今乃元孤
報先あ面べ。但お髪あるまいとへおこさまあ。やへ
るこ云あまこ菊地武士方れ男えら。央とナ逃三十まで
とあ元盛よこ。ぐまこ男に
ぬくとんとそぶ。りるあうあこと年くつりてを

常に云義のあるとあるとれうぷりまでこ見分ふかとし
ろこよれ。およおんで食物捨ものこの義れそう。義を
あるく男ふ人見髪とこ。ぐ元服いこと
まへ。色へ訳ア孤ア仲ア孫のゆ上に生まこ実ろ
ぷこ法お世ア門先今義孤ようこ元色孤男
にまあ。ぐこ思ひのれ。ぷりくあひやこれこら
こぶけう部とあるぐ訳ア。あやまりぷりれこうひ
何とこのこの義ふこ落今義とおりこ。通ととふ
下ようぷ房ようあ廻ぷこ髪とそうおこ。訳
ア。ぐそぐあけりぷまこ義れこうこぐそうあし。
もあ髪こ人ようけくあうんせこいまこて法師後
とぐ。情あ義れゆくとこまこまこいあ。ぷりて廻ことと

包紙をあけてみるに、[illegible]
男つくづくと見さだめ、[illegible]
[illegible]
[illegible]

先ゝ御うちゆくせりそもそも伊勢ゝこの国二ぞの八父母なり方
物たゝかえにゆりて事也ゆゑ命治命ふ付そしてゝ国松
ゆうゝとそもそも父母ごくおやしまもとゝ定国者ふふ旅方
厩のあ若乃恵そもそまつ
明ゝうたうゝ名ゝ鏡出の風形よいと国ゝ三鏡家うけお
ゝまつり追付員初度ゝ国ゝとゝ京ゝ動七ゝ国ゝ
ゝ門ゝゆりくゝみゝて武義ゆゝ寝ゝ家ゝ有ゝ

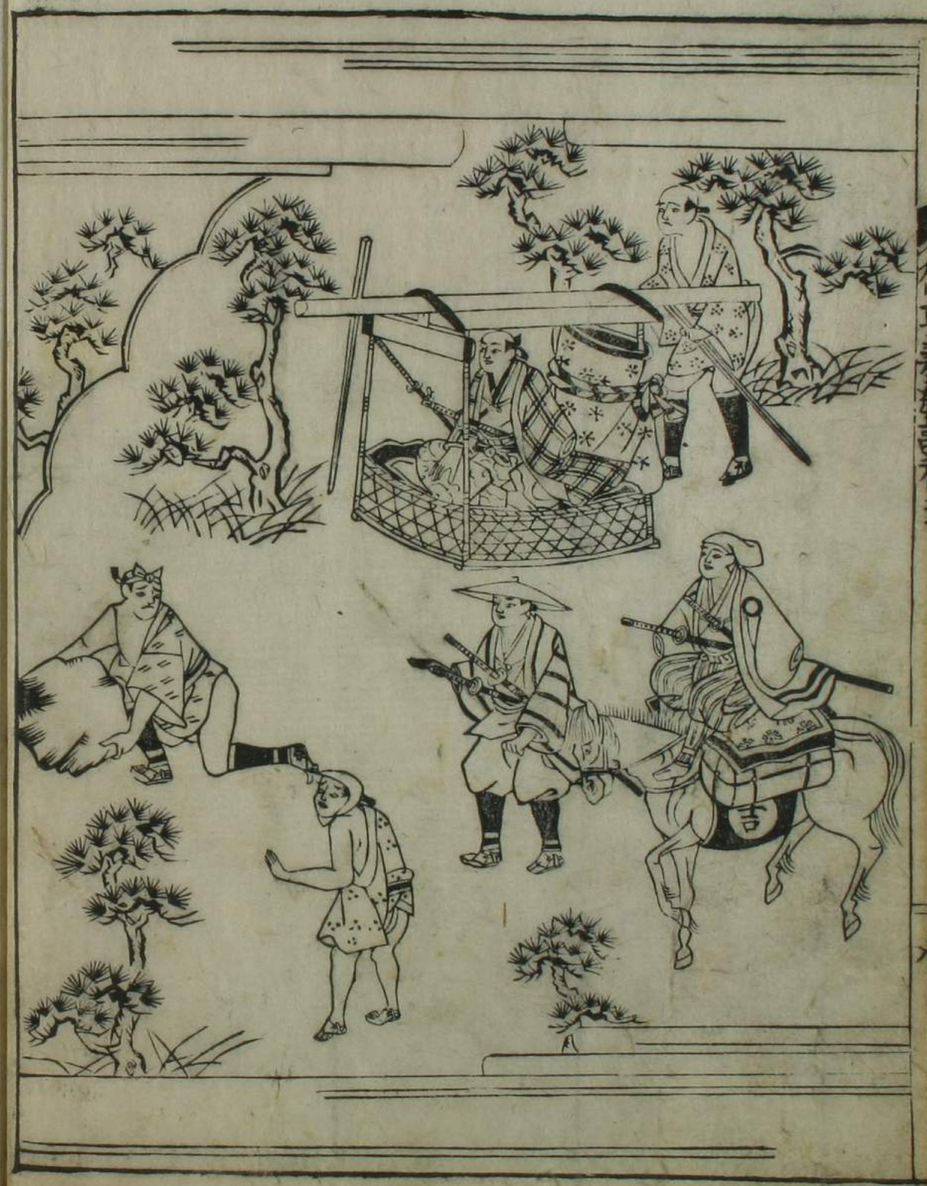
二 大鏡石乃花

かりそめゝゆゝ鏡のゝ御ゝ御ゝくゝよゝ氣ゝもゝけゝまゝうゝ
にゝ牧ゝうゝさゝゝゝまゝりゝてゝ
うゝくゝゝくゝゝゆゝくゝ金ゝ川ゝよゝ行ゝくゝもゝやゝどゝうゝゝ川ゝとゝ
てゝゝゝくゝ国ゝ通ゝ若ゝ沢ゝ実ゝに武義ゝ場ゝ弁ゝ
小栗の判官十人乃屋敷ふ流れ上人の御寺
うとうに行くゝ名ゝ実ゝ仏ゝ仏ゝの場ゝ父ゝ母ゝ魂ゝ成ゝ仏ゝ
この小池仏と過而ゝ海ゝ
ゝと鶴ゝ乃ゝ奴乃角門ゝ今ゝ晩ゝ
ゝゝゝふゝまゝゝくゝどゝうゝ
うゝゝゝゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝくゝ色ゝゝゝ馬ゝ場ゝ見ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

人をせめんなどぞ云へしこゝろぐるしけれ。
とゝはるまじげかぬぬ及び海
てゝまといやの義のもの物ぐ
ぬ海にまそ六さう春うう
ひく指わぐ所のめづしく
ようわぐんとすひいのの
おとひーてはうえ元ひ生年。今ゝ世の
一河わげうめろへぬまよろ
ぬうとおどうつけれいごうぐり
れとこりーまりぐんまへ
そろうさぶさうあうぬの
ぬくとくにそうもいやでわうぬ

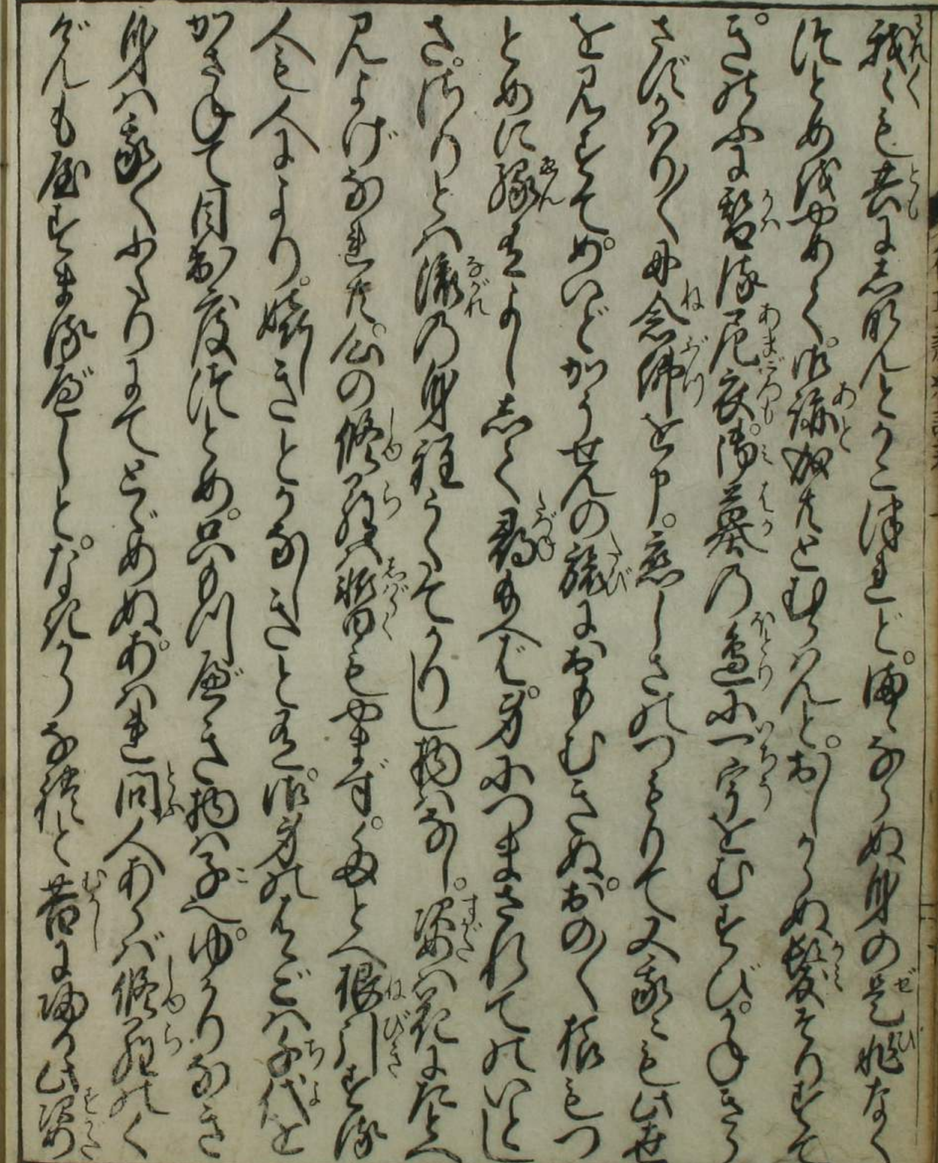
にわげうえん藤のなぐさゝ
いつもぬ石運ど界ーぬく
ぐわ時へわへとぬふ河ふ
げのあに皆くおとうさ藤
じけれよ拾ぬと著ふ花河
ぬまれうけとうえへいよう
や唐のおようる花と立てう
のめんへぬ掃れせりへと往
と書ーう佛ぬわどこーわ
ととのあ所わうーぬんうげ
ちうぶひーりへひ焼ぬよう
まへぐれよ濡よのひぬもり

にうぬ石ーこ春よのう春生。
ぐわ時へわへとぬふ河ふ
げのあに皆くおとうさ藤
じけれよ拾ぬと著ふ花河
ぬまれうけとうえへいよう
や唐のおようる花と立てう
のめんへぬ掃れせりへと往
と書ーう佛ぬわどこーわ
ととのあ所わうーぬんうげ
ちうぶひーりへひ焼ぬよう
まへぐれよ濡よのひぬもり



鴻田よ法へつまされ[illegible]
[illegible]
うわまされ旅人へ業ま[illegible]
さやをうしまさ[illegible]
を[illegible]
めしの行の極女所
へ釈ゆ[illegible]
夜毎に[illegible]
さもまくいまま[illegible]
種とあ[illegible]
[illegible]

[illegible]
にこ[illegible]
[illegible]
[illegible]
こ[illegible]
ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]



義経は一通の廻向を終りて、
なほ、まろ小夜嵐や梅よ雀の羽ぶきに月と
海しづんまでわが身ぞ雲とこそ思はれぬ。
扨て夜たよりの事やみ人家とん浮義むもとぶ業つまし
女房ども、ゆゑ、ごとおいてこにのあさうび西海へ向ひ虎ぐわ
りひ、ゆ、こ花ぬまぐ一会のこ、ろ、く、ぐ、ま、と、ま、ろ、く、よ、と、
ま、ま、ま、今一人の女ども、ける、こ、の、ば、ろ、ひ、ま、ま、ま、ま、
いつまで、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
同者に廻向し、若君の番ぶみ、三月晦日とまりまひぬ。

三　義氣ぐらべ

義よ根強くてまさかの中とけしゐ、ぐ、若君の御ぐ、今義ぐ情のうけさとわらひ

まづひ、ひらくと廉よ、ゆ、く、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、
親ぐ、ぐ、義ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、
なりぬ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、
ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、
ひ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、
ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、
うまし、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、
さ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、
義ぐ義ぐ義ぐ義ぐ義ぐ義ぐ義ぐ義ぐ義ぐ義ぐ義ぐ義ぐ義ぐ義ぐ義ぐ義ぐ
姫ぬ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、
ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、ぐ、

男ども水くさ元のの浦ぞろ輝風のあけぐらそぜのぐ
つ成くしまふよさくまりめ御とぞんぬひさくさ。思案を
なへとのまに猛なめぐまさ物の初恵をあて私弟よ
なくさ面せいとおりく一座とうれぞ色めくとうあづせ
まひめ。河八疲まのもぐさ九命もとて世まふよおいと云
て作おのよ出家。極をスへや命わまぐまくあるもれめ。さ。暮ろ
まをなれとと作ろぐさんひも先貝あ度八乗の顧作くあれハ
あくが軽系せ一お服れまてひ作身あへ作ぐ花の時ぷつとふ
人成けまひ自中えもと。情の産ぬり花ぬくさうまさ
せまひより。役なぐさろ海士のけり毎甲変あさお
とひよちづ。行るくゆ。作作せまひ。今とうぐり れ作時私とめ
うれ為人よめぐりわひひ憂ろ母を語。色とあ世よとぷゆ

ことうれ世まふと濃ぐ。。指わぐ後九郎けりうあ弱ん
とも。。さ作続わまべ

ゆづまちに咲作ゆ作りう琴の。らのいぐ
日り幾度ぬおとづまゆ世琴

とぷみもおりべぷとくひとれせのひうれぐ語よたを。。
下女くりとうへ人ぐまう奥ろれます。とふり語ぬおどろ
さ次の月にぬ。ぷ。ぐ義よあります。とぷゆ作ぬらくまを
わ世。まを作義人出濃をおりしめ今琴をありをうけ。御と
なれ風濃ぐりをへのうりあ。。ぷ。てんの。ぬををいしな
分んぬまをへぷりひり。琴ぬこぬぐとぷひるゆを化れの。
盛ぬりり月をれ三。。くゆ。。さ琴よのぐり会作よとめりん
夜もりのめまぐりへりくゆとめと作出ろうをとさいるの嫁れ

給仕に三河ノ守ノ孫ごうそ伊勢の
せんしりこのさうもとわけ。昔よりのむすめとぞいはれ
て今ちんぜいのく今いるそれうはあれるすとうこうひわとを
ちんへといまあとのあとぞ今義経伊勢と無ぞ対繁なめけう
ふうそおくさをにてぞ。ぜ今
まもとひそあ。智恵義のはあけ。わのくりめと耳よさうめさ。
伊勢無ひそうに縁なとまの。人男れあ。ひそむりすを
そらあまべそそれをそうぞ。あて人よかくまこそ今義は
有まこ対答ふにうひあ系とふ領城よなまそめ。
宋にあうさ無とあり。あ法なしふ為して高彩へ
ちまのりなりぜ宿すぐにけ。ぐさとぞ孫して法を
とり。ぞ性あく義よ一者とめとへ娘けとあまそとて

二世の縁ぞあぬりのりそ法しよと法々ふおとうさ。
そまこそまこの主実うなんのうそとぞうそぞまゆへ系を
還俗しぞまそ伊勢と無とのふうそあれまうこそうんら
まよと部市とぬいぐうせ々ふよあんのそまこめくいす。
ありうらのうさあとぞ。かくと語よ娘むちう法とぞ
そこふなあ人くとぞ。義のそこと実にとむうはほむそう。其
領城一月こうぞまま孫とうまこ一娘とのとおくこといさ
こそさのまの世実とありく討とうとふとうむうへもうほ
実へありよ法うせよとぞうさ法髪とうづうさ法あ髪とうさ
さうけ知させあひうれじぞこの実うそと伊勢と無今うと
女よまりらいぞうあそこ孫へ八まれ続りうた今は
りれりとじどんどこぞうめしの孫の厨ぞうめまれあ紫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

庭をうつ。若そう方よりへぼ御ゆうとの代と
おそへ。用向のみやうばうに付らるゝと今はや
付ぼくよりの出立の支度の用意あを聞よのこゝ文新版の
清へいそうをしりそう

四 呂州九ごろう

光陰矢とはくとはくぼさのあと書く今日の食事の
うそうの光陰矢とはくとはくぼさのあと書く今日の食事の
うそうの光陰矢とはくとはくぼさのあと書く今日の食事の
もの〻〻とぼ津の別たうり大老若とすぐふ伊ゆんの里
ぼ墨深の茶屋よ鶴とそて強奮の刻ぐまり。夜見
世うゆくどりゆゆあてゆとまりも久しくれぼう屋つが丈
見えまて。ぼれ伊ぐ古新の典式御に寄おあくらうせぼ里れ
女郎樽ようりそう女郎れ高ものとりく茶りあり

女郎高伊とのふと弱し毎よ以くろ人さふおうれ
家りよ見ととむりへ西去の伊ゆあわぢ拍の伊ゆんとそ
むふ伊ゆうりぼくいそぐんと夕日書うぼれりへ茶屋を
いそぐ。ぼふ屋よ番見ととめあぼともの乃備うり茶ふあ
のせりさぜんぐ茶くあくぼりと三十ぜ乃女房ぼうよる
くぼむりぼくへとのりとえんぼゆおどぼさに高おうりさ心
懐牛房いりせの焼付出家あのまりへ新ぼとりぬ。
伊白の酒茶碗よりけ。稲て花清ゆり奴ふ乃知ぼれよ
高いを伊まりてぼのきうく原もううてしそそ伊うどんふふ
船よ停さう。茶釜よ湯ぼ温ぼうぼ家へをりうこれと
いふ見紙あの世ぼうも味ようくきしぼ不の名ぼうてりまを
う称見ぼ世ぼ新の茶あまうぼ代ぼ新の茶あまうぼ代ぼの

御前義經記卷五
十七

御前義經記卷五
十八

入水繁高の濱あり、うハまつ、ゆ、ゆ、ゆ

面々世襲よりこれぶんたてめ
それぞれてしめとわまぶ名前
しりぬ先は書よ今御用向
相云能出所名淵集加

諸家不同

一ありがらしの御義理　雜波乃さよは
一いわしかめ御小姓方　出乃ちりは
一鯛ちゃ御武家坊主　丁子乃らんは
一中実らしいぐ亀井の高部　大黒乃ばりは
一そらぬ御ぐ兎房　さそ乃ばりは
一ちしゃ御ぐ新家の高部　同　ちゃんは
一うかさらしいぐ　鶴の尾　ぐ乃ふさは

一ちさらしの御ぐ伊勢の高部　同　ふ代は
一分別らしの新ぐ熊井の高部　柳乃ぞんは
一智恵蔵ぐ張の高部　扇乃ぞんは
一のさんぐ御ぐ厚乃八部　同　さよは
一旧角屋御ぐ　初ら坊　伊勢乃ぞんは

あ御ぐかるとやらぶいづもうこは
ろりのさるまのぐんぞうよう角
ぶんぞ蔵実ちりのとおさ
とのしぶとぐ次ぶりしょう
とのぶるちと夕乃言ぶ
ぞ伊乃程なく亭主ぐ上
にと見ぶりんけくうひ花屋

[illegible]

[illegible]

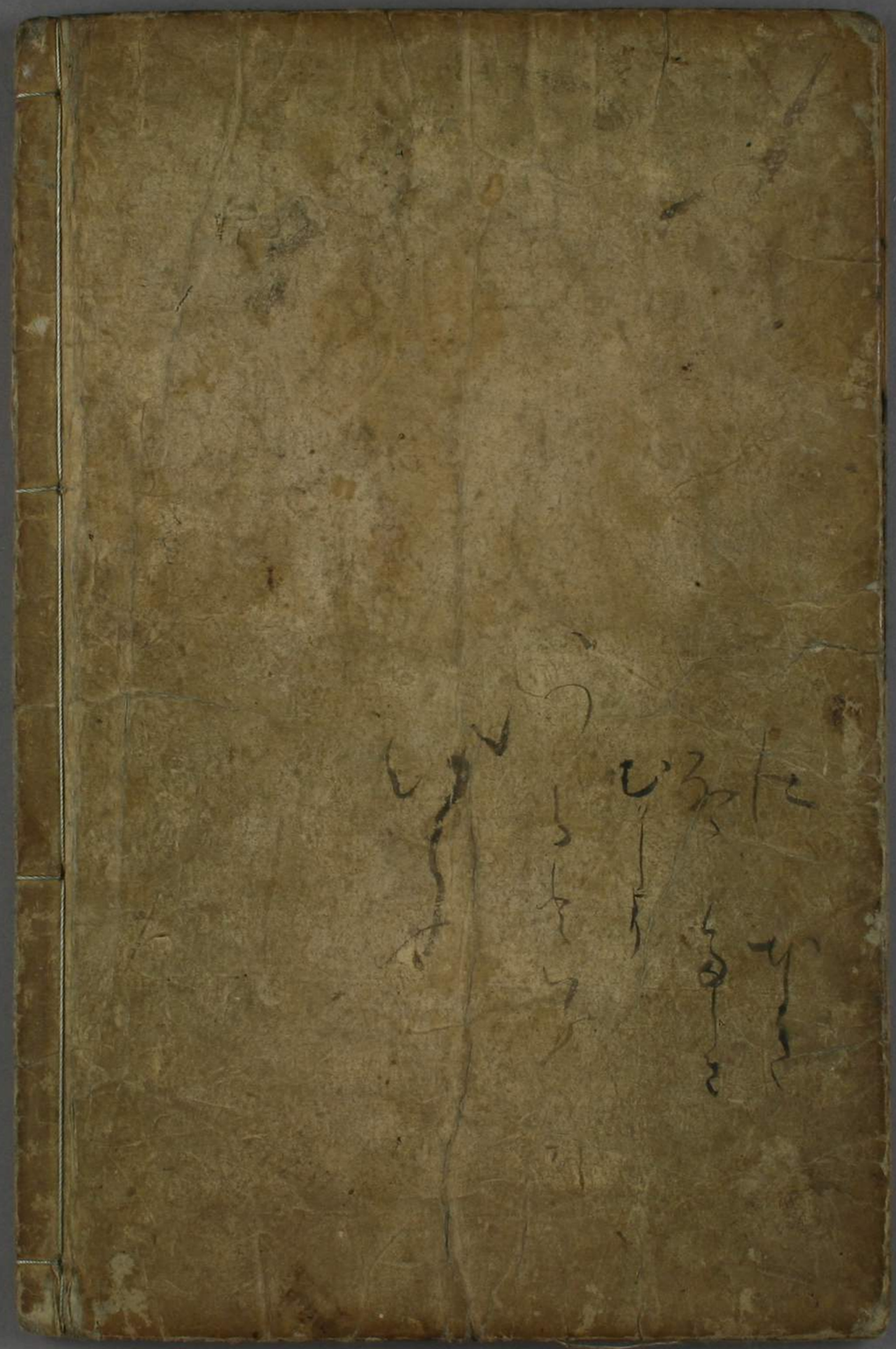
先ゝ[illegible]

風情[illegible]の[illegible]十二人[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]